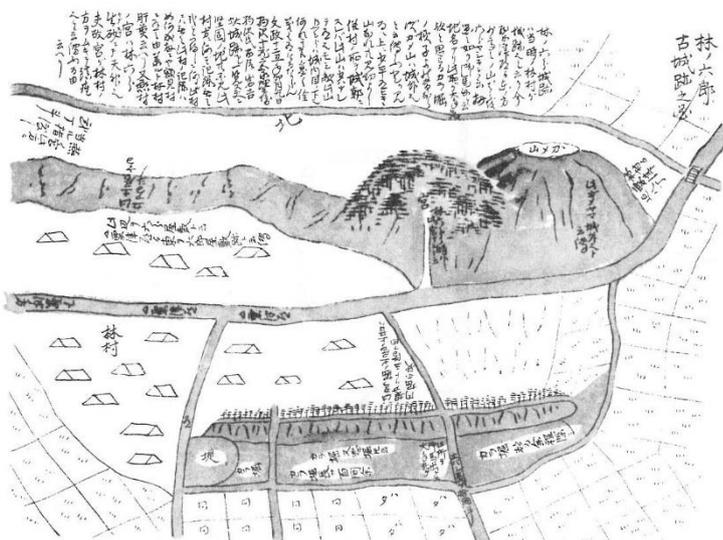


武士団 林氏の館

林氏は、平安時代終わり頃「林介」と呼ぶようになり、
貞光の嫡男光家と、次男の成家の2系統に分かれたとさ
れています。光家系は本拠地の「林」の地名を姓とし、成
家系は能美市板津・小松市白江一帯を拠点に、地名と
「介」の号を受け継ぎ、板津介・白江介と呼びました。

林光家の嫡男光明は、源平合戦において木曾義仲と共
に平家軍と戦い、大きな活躍をしたといわれています。光
明の館は、白山市知気寺町にありました。現在、館の場所
はわかっていませんが、江戸時代後半の絵図には、家が並
ぶ一角に、館を守るための堀が描かれています。

白山市日御子町には、林光明の墓と伝わる「六郎塚」
があります。この塚は、江戸時代の書物『越登賀三州誌』
にも記されており、今は白山市史跡に指定されています。



林館跡の絵図(江戸時代)『加賀市史通史』より



六郎塚(白山市日御子町)